

# 街歩き・その3 『北沢用水の流れをたどり、上北沢4、5丁目から甲州街道へ』

世田谷区の地図を広げてみますと、上北沢の町がずいぶん変わった形をしていることがわかります。北西部分が杉並区に嘴をグサッと突き出した形をしていますが、これは「北澤用水」を守るために、「山室三兄弟」による耕地開発の苦心の跡だと言われています。江戸期の「上北澤村」の時代から、1967年(昭和42年)に「桜上水地区」が分離されるまでの上北沢は、南は現在の経堂小学校、東は日本大学文理学部までの広さで、北と西はほぼ現状と変わりません。

第3回の街歩きは、この北沢用水上流域の上北沢4丁目と5丁目を中心に歩きます。

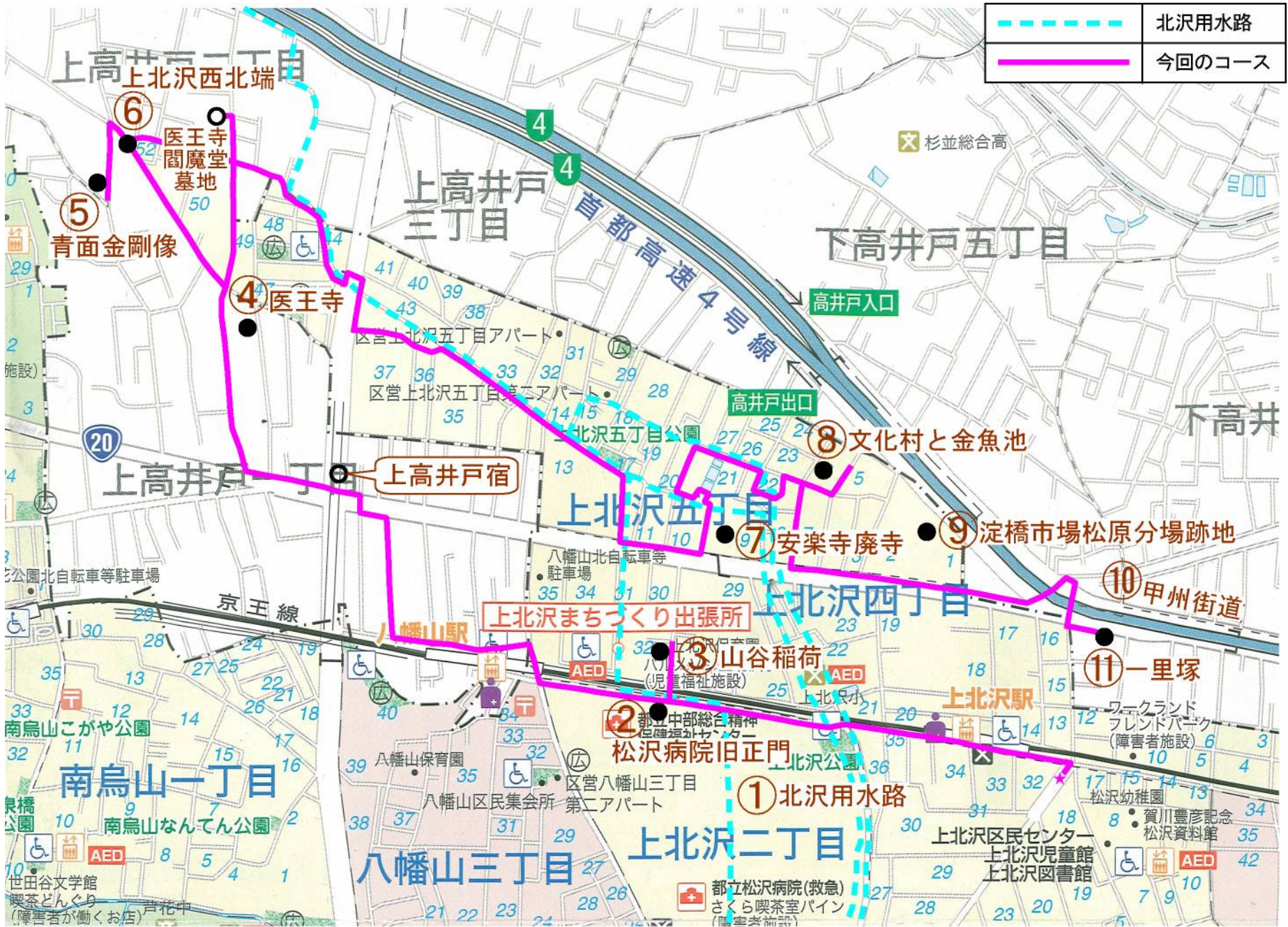
山室家は、神田上水開削に関わり、その後この地に住み着き、山谷地区を開発し、現在の松沢病院の地で醤油醸造を行い、大家を成しました。





## 上北沢桜並木会議

### 目次

地図	1
① 北沢用水路(本流水路・水車堀水路)	2
② 松沢病院旧正門と八幡山駅	2
③ 山谷稲荷(上北沢4丁目32番)	3
④ 医王寺(杉並区上高井戸1丁目27番)	4
⑤ 青面(しょうめん)金剛像(杉並区上高井戸2丁目11番地先)	5
⑥ 上北沢西北端(上北沢5丁目52番)	5
⑦ 安楽寺 廃寺跡(上北沢5丁目9番)	6
⑧ 文化村と金魚池	6
⑨ 東京都中央卸売市場・淀橋市場松原分場跡地 (上北沢5丁目2番)	7
⑩ 甲州街道 [上高井戸宿] [下高井戸宿]	7 8
⑪ 一里塚	9
[参考文献]	10
(参考)	10
[府中道の記 地名考察]	12



	北沢用水路
	今回のコース

## ①北沢用水路(本流水路・水車堀水路)

1654年(承応3年)玉川上水が完成し、1658年(万治元年)上北澤村住民の飲料水用に上水からの北沢用水の分水が許可され、更に1670年(寛文10年)玉川上水の拡張工事が行われて灌漑用にも使用出来るようになりました。

古地図と水路跡から類推すると、分水されてきた用水は上北沢地域では現在の地番で5丁目48番付近で村に入り、5丁目14番付近で二つに分かれています。本流は同8番付近で甲州街道を渡り、流域の田を灌漑して南流し、もうひとつの水車堀は同12番付近で甲州街道を渡り、いまの街づくり出張所前を経て周辺の畑地を潤しながら、いわゆる古府中街道(現在の赤堤通り)と平行して南流していました。

なお、松沢病院本館等の建設により、現在は一部流路が変更されています。

## ②松沢病院旧正門と八幡山駅

1919年(大正8年)に松沢病院ができ、当時の正門前に「松澤駅」がありましたが、1937年(昭和12年)「八幡山駅」と改称、その頃は、正門前を始発とする荻窪行きバスが発着していました。昭和20年代に車両の大型化・長編成化計画のため、駅が現在地(杉並区)に移転し、1970年(昭和45年)には高架駅になりました。

駅の移転と病院正門が現赤堤通りに移り、その赤堤通りが甲州街道まで拡張されたことによって、八幡山駅を中心として飛躍的な発展をすることになりました。



松沢病院旧正門門柱跡



京王線下の暗渠部分  
(上北沢4丁目22番付近)



上北沢小学校付近の暗渠部分



甲州街道北側の暗渠部分  
(上北沢5丁目8番と9番の間)



甲州街道南側の暗渠部分  
(上北沢4丁目24番付近)

### ③山谷稲荷(上北沢4丁目32番)

1614年(慶長9年)に創建されました。1907年(明治40年)に勝利八幡(上北沢)に合祀されましたが、その後山谷には良いことがないということで改めて仮の祠を作り、それがいまも残されています。

山谷は旧上北沢村にあった「字(あざ)」のひとつで、その範囲は、現在の松沢病院敷地の北側(全体の約4割)と、その北に続く甲州街道までの地域を占めていました。その起源は、現在も旧家として続く山室家などがここに居を構えたのが始めと言われています。

「松沢村史」では“山谷”の名は、始めに山室三兄弟の家だけであつたので(三家⇒山谷)となったと記しています。山室家は上総の国の出身で、江戸幕府開府直後に家康が実施した神田上水開削による水道工事(水道橋、水道端など)にかかわり、これを完成させました。後に上北沢で醤油の醸造を大規模に行い、明治初期の内国勸業博覧会などに出品するなど活躍されました。

また山谷は、江戸後期の「新編武蔵国風土記稿」の「上北沢村」の項目の中で[山谷町]として記述されて、“甲州街道ニシテ、高井戸宿ノ辺ニアリ。両頬二町アリテ旅具ナドヒサギ(売り)頗ル賑ヘル処ナリ”と描かれています。ただ江戸時代後期になると、上北沢村の中では、本村にあたる現在の桜上水のほうが歴史が古く、また純農村であるのに対して、山谷地区は新興の商業、産業地域になり、ことによると経済的な地位が逆転するなどがあって、相互の軋轢が生じていたのではないかと考えられます。

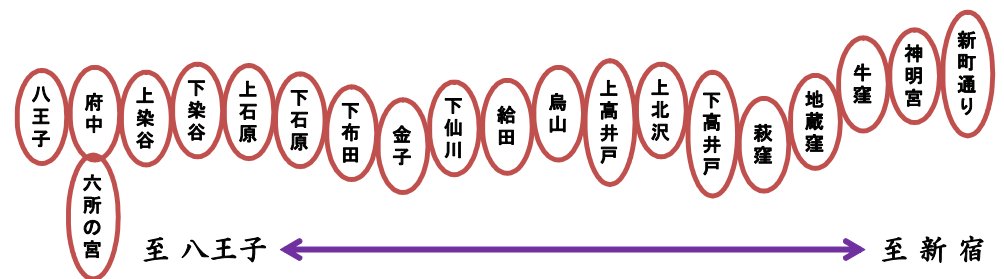
その一つの例が、稲荷神社の合祀問題ではないでしょうか。



山谷稲荷



勝利八幡神社



府中道の記(甲州街道)より地名抜粋

#### ④医王寺(杉並区上高井戸1丁目27番)

寺の言い伝えでは、奈良時代834年(承和元年)に、弘法大師が東国巡行の際箱根山で彫った薬師如来像を平安初期に海星和尚がこの上高井戸に建てた庵に本尊として安置したのが始まりといわれています。

また、本堂が西を向いているので、別の名を、西向茅野(にしむきかやの)薬師とも言います。

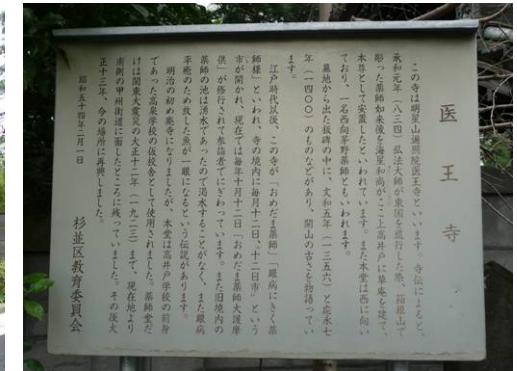
墓地から出土した板碑の中に、鎌倉時代の1356年(文和5年)や1400年(応永7年)の銘のものがあり、開山が古いことを物語っています。

江戸時代以後、「おめだま薬師」として眼病に効能があるといわれ、毎月市が立つほどでした。

元々は現在地より南の甲州街道沿いにありましたが、明治初めの廃仏毀釈で廃寺になり、1924年(大正13年)に現在地に再興されました。毎年10月12日に「おめだま薬師大護摩供」が行われ賑わいます。「本尊木造薬師如来坐像」と「医王寺板碑群」は杉並区登録文化財です。



医王寺



閻魔堂墓地



### ⑤青面(しょうめん)金剛像(杉並区上高井戸2丁目11番地先)

杉並区登録文化財、銘「1754年(宝暦四年)」。この像は仏教像ではなく、中国道教思想と日本の民間信仰が合わさって独自に発展した庚申講の本尊です。

像の形は一面三眼六臂で、手足に蛇が巻き付いています。この像は独立のもの以外に庚申塔に「三猿」と一緒に彫り込まれたものもあります。

庚申講は相模国を中心にして多く、庚申塔、塚が街道沿いに置かれていましたが、明治政府が迷信だとして撤去をすすめ、その後の開発でほとんど消滅しました。

「庚申信仰」:

もと平安貴族から始まった。道教では、「人間の体内には三尸(さんし(上尸=頭、中尸=腹、下尸=足))という三種の悪い虫が住んでおり、干支で60日に一度の庚申の日に、人が寝ている間に動き出し、人の悪事を天帝に報告しに行く。それを防ぐために、その日は眠らずに皆で集まって夜を過ごす。」、のちには民間信仰になって、庚申講の日は徹夜で酒盛りをするなどの風習になった。

### ⑥上北沢西北端(上北沢5丁目52番)



青面金剛像

### ⑦安楽寺 廃寺跡(上北沢5丁目9番)

風土記には、「山谷町の北側にあり。新義真言宗、江戸愛宕真福寺の末寺、西光山遍応院と号す。慶長年中よりの寺院なりという。本堂は南向、本尊阿弥陀如来を安置す。」とあります。

甲州街道(1604年 慶長9年完成)開通後10年くらいの間に来たお寺と考えられます。現在はバスの駐車場となっている西側半分にあったようで、山谷の旧家の墓地と六地藏が現存しています。甲州街道拡張以前の六地藏は街道に面していました。

江戸時代には、寺子屋が開かれ、山谷の集会所としての役目も備え、念仏講も上北澤本村とは別に行き、大山詣りも上高井戸村と行動を共にしていました。高井戸宿と利害が共通だったのです。寺子屋は、明治になり各村に学校を作る動きが起きると、高井戸村に移りました。

1875年(明治8年)に安楽寺は密蔵院に合併されましたが、墓地はそのまま残されました。右記写真「六地藏」の木立の部分が墓地です。

### ⑧文化村と金魚池

現在の北沢5丁目3~8番の大部分は、昭和初年代に住宅地として開発され、「文化村」の通称で親しまれた新興住宅地でした。当時は、洋室客間のあるその部分だけ洋風な文化住宅が流行でした。

21番地の大部分は、鯉や金魚の養殖池でした。北沢用水と直結していたため、大雨で池が溢れると、鯉や金魚が用水に逃げ出し、用水の下流域では子供達がそれを掬って大喜びでした。



六地藏  
(甲州街道拡張以前は街道に面していた)



安楽寺跡  
(現在はバスの駐車場)



金魚池跡(上北沢5丁目21番付近)



暗渠の上は遊歩道

### ⑨東京都中央卸売市場・淀橋市場松原分場跡地(上北沢 5丁目 2番)

1939年(昭和14年)に開場し、青果物を扱っていました。東京都の施設で敷地は約9,500㎡。2008年(平成20年)7月に世田谷市場と合併され閉鎖されました。

### ⑩甲州街道

江戸時代五街道の一つ。日本橋を起点に、八王子、甲府を経て下諏訪へ至る全五十五里(220km)に及ぶ幕府の幹線道路で、正式には「甲州道中」と呼ばれました。

高井戸宿として、馬の準備などの「接立て」業務は、月の前半15日間は下高井戸宿が、後半は上高井戸宿が半月交代で受け持ちました。

この二つの宿の間に挟まって、北沢用水の流れを守る様に、街道の南側に上北沢村字山谷と字八丁丸、北側に字谷野上の地区がありました。草鞋などの物品販売などで現金収入が多く、北の本村より懐具合は良かったようです。



閉鎖前の松原分場



昭和30年代中頃の甲州街道  
(拡幅工事中、現 上北沢駅入口付近)



昭和30年代中頃の甲州街道  
(拡幅工事中、現 八幡山駅入口付近)

[上高井戸宿]

旧甲州街道沿いの両側に、現在の八幡山駅入り口から、芦花公園駅入り口までの間に続いていた宿場町です。本陣の武蔵屋は、現環状八号線との交差点の西北角と東北角にありました。又、宿場の座標となる寺院は、南側に長泉寺、北側に医王寺があり、現存しています。

[下高井戸宿]

甲州街道沿いの両側に、西は現在のの上北沢駅入り口から、東端は下高井戸2丁目21番の竜泉寺付近まで1.5km以上の長さで続いていました。本陣の富吉屋は、桜上水に現存する覚蔵寺に向かい合うような位置に、街道の南側にあったとされています。本陣の場所については別の説もあり、杉並区としては「不明」との立場を取っています。

覚蔵寺は、本来は新義真言宗で、上北澤村の密蔵院とは親類関係にあると言われています。

下高井戸宿当時からのお寺でもう一つ、宗源寺があります。ここには、「高井戸」という地名の起こりといわれるお不動さんを祀った「高井堂」があります。



昭和33年頃の甲州街道  
(現環状8号線との交差点付近)



昭和33年頃の甲州街道  
(現杉並区上高井戸1丁目付近)



覚蔵寺



宗源寺



宗源寺の高井堂

## ⑪一里塚

江戸時代、五街道のひとつであった甲州道中(街道)は、江戸日本橋を起点として、内藤新宿、高井戸、府中、八王子、甲府を経て上諏訪に至り、つぎの下諏訪で中山道に合流するようになっていました。

この街道を利用した諸大名は、信州高嶋藩、同高遠藩、同飯田藩でした。

また甲府には、江戸幕府の甲府勤番がおり、幕府諸役人の往来もありました。

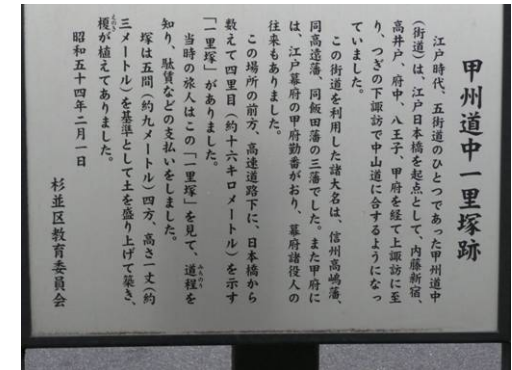
昔の甲州街道は、幅員 9m程度の道で、その両側に日本橋から数えて四里目(約 16 km)を示す「一里塚」がありました。当時の旅人は、この一里塚をみて道程を知り、駄賃などの支払をしました。

甲州道中一里塚跡(昭和 54 年杉並区教育委員会設置)の説明板があります。

塚は五間(約 9m)四方、高さ一丈(約 3m)を基準として土を盛り上げて築き、榎が植えてありました。



一里塚説明板と同じ場所にある  
国道 20 号 16 km ポスト



一里塚の説明板  
(上北沢 4 丁目杉並区との境界付近)



[参考：北区西ヶ原の一里塚]

## 参考文献

- ・わたしたちの郷土 上北沢桜上水郷土史編さん会 昭和52年7月発行 安楽寺廃寺跡
- ・ふるさと 世田谷を語る 上北沢・桜上水・赤堤・松原 世田谷区 平成8年3月発行
- ・ふるさと 世田谷を語る 粕谷・上祖師谷・千歳台・船橋・八幡山 世田谷区 平成7年3月発行
- ・解説・図表・索引付 世田谷区史年表稿 世田谷区 昭和50年2月20日発行
- ・ふるさと せたがや 歴史ハンドブック 下山照夫著 平成16年4月発行 相模書房
- ・史料に見る 江戸時代の世田谷 下山照夫編 平成6年12月発行 岩田書院

## (参考)

嘉陵紀行 第一篇 嘉陵 村尾正靖 著  
府中道の記(甲州街道) より抜粋

文化九年(1812)の一月十七日、国府の六社の神(府中の大国魂神社)にお参りしようと、友人と連れ立って、まだ夜の暗いうちに家を出た。四谷から内藤新宿を南に折れて新町通りを行く。ここの牛窪と言う所の道の左側に神明宮が建っていた。なおもう少し行くと地蔵窪と言う所があった。[道端に石の地蔵があるのでこう名付けたと言う]。その傍らに小道があり、北沢村の淡島の祠に行く道とか言う。ここを過ぎると代田(だいだ)村で、行く手の左に茶店があり庭の築山がもっともらしく作られている。ここには饅頭を売る店が一軒と、酒や飯を商う家が数軒あった。萩窪と言う所の道の右に堀の内妙法寺へ行く道あり。今朝がたから馬を牽いた男たちに何組も行き会いが六十頭ばかりつれていたので一番多くて、十時を過ぎる頃までに馬の数はおよそ五百あまりになった。青梅街道から江戸に来るのもまたこんな様子なのだろう。この馬たちは午後二時を過ぎるころから夜をかけて帰ると言う。あとからあとから馬が来るのでとても歩きにくい位である。

下高井戸。このあたりで道の脇に数丈(10メートル余り)の杉丸太を立て、上には大きな三方に丸餅などを載せた造りものや、そのほか思い思いの造りものをつくって、いくつも立ててある。土地の者に聞くと道祖神を祭る御柱だと答える。[年の始めはいつもこうして祭ると言う]。このあたりでは鳶や鳥や小鳥の声一つしない。《一鳥不啼山更幽》(一鳥鳴かず 山更に暗らし)と言われていることを思い出す。

ここから上北沢のあたりにかけて、柱の材料にする杉林が何ヶ所もあり、皆下枝を刈り落として幹があらわになっている。宿（下高井戸宿）の中には寺が二三あり、又不動尊もある。道の右には江戸廻りの上水が流れ、左には大山道がある。

上高井戸、烏山、給田、下仙川などと言う所を過ぎるが、みな見所なし。下仙川に小さい坂があり多喜坂と言う名がついている。[深大寺村に上杉五郎朝定の城跡が今もその形を残している]。左に目黒道あり、右に深大寺道あり。坂を下って左に田んぼが見渡せる。右に酒屋があり、蕎麦切りを売る店もある。

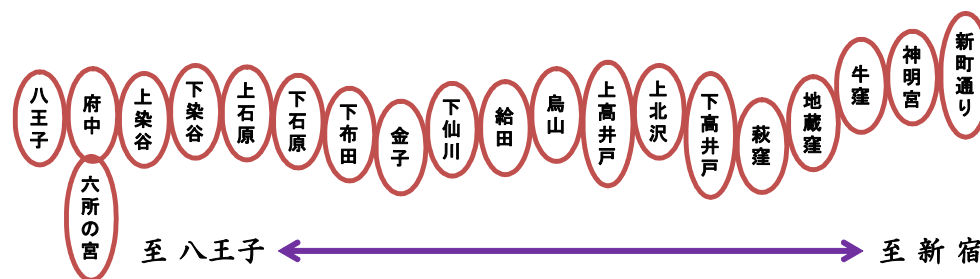
ここを金子と言う。[北条氏輝の家来の金子三郎右衛門に八王子城の金子曲輪を守らせたこと、太閤記八王子城攻めの文の中にあるので、金子はこの住人なのか、又、ほかに金子と言う所があるかも知れないが]。道の右の小道に入ればしばらく行くと、金子十郎家忠が住んだ屋敷跡があると言う。その近くに平山武者所日奉季重が住んだ所があり、今も平山と言うとのこと。人の話を聞いたままに書き記す。

それから下布多と言うところを過ぎる。ここに布多の天神宮が祭られている。[下布多村にあり、延喜式神明帳に載っている社だという]。今日はお参りしないで行き過ぎる。布多は、むかし調布を造った調布の里であるなどと物知りたちが言っているが、これは布多という文字にこじつけたのではないだろうか疑わしい。

ここを過ぎて下石原、上石原などを過ぎる。このあたり道に石が多いが、そのために石原と名付けたのだろうか。ここから西南の林のはずれに多摩川の向山が見える。それから少し行って下染屋、上染

屋に着く。この上下染谷の間に原がある。江戸からここまでは、道が林を出入りするだけで、目にとまる眺めは無かったが、ここに来て初めてのびのびと山並みの美しさを見ることができた。南に大山が見え、それから山々が連なり富士の麓を遮ってそびえ立つ。西北を見れば八王子の権現、秩父、武甲の山々が見える。[ここで富士の根方の山を望み、山に皺があるのを見て山にやや近づいたことを知るだろう。秩父の山はなおさらである。そのほかの山は江戸で見るよりは高くそびえ、富士は江戸から見るのと比べて根方の山々にさえぎられて五六合目から上を見る感じがする。多摩川の向山も間近に見渡されて] 傍らの民家に腰をかけてこの風景を描き写す。

(以下 略)



府中道の記(甲州街道)より地名抜粋

## 〔府中道の記 地名考察〕

(明治四十二年測図, 陸地測量部五万分之一地図<東京西部><東京西南部>を基準として)

### 〔国府の六社の神〕

神社六所をその国の国府またはその付近に合祀したもの。  
六所の宮(=ろくしょの宮)。この場合は府中の大国魂神社を指す。

### 〔新町通り〕

かつてこのあたりを“新町通り”と称しており、その名残で第二次世界大戦迄、京王線に”新町停留場”あり。

現在の文化女子大学の敷地の東北端付近。

(京王線はここで初台方面からの地上専用線から甲州街道の路面に乗り入っていた。)

### 〔牛窪〕 〔神明宮〕

第二次大戦迄、現西参道口付近に京王線の”天神橋停留場”あり。  
これに関係あるか?

### 〔地藏窪〕

甲州街道から左へ「北沢の淡島」(現在の代沢三丁目あたり)へ行く道の分岐は、現在の幡ヶ谷商店街入り口、幡ヶ谷一丁目二番地あたりか。

〔代田村〕現 大原、代田地区。

### 〔萩窪〕

”はぎくぼ” 明治 42 年測量の陸地測量部地図上では”萩久保”。  
現 大原交差点付近。〔堀の内妙法寺〕へ分岐する道は、現在の環状 7 号線道路の幅の中に入っている。

### 〔下高井戸〕〔上北沢〕〔上高井戸〕

道の右側に流れていた“上水”は現在暗渠、公園になっているが、昭和 20 年代までは岸の両側に高さ 1 メートル余りの土手、それに桜の老木、その中を、幅が 7～8 m もあったか、たっぷりした水量の水が、とうとうと流れていた。

また、上水の両岸や、上北沢から浜田山に抜ける通称鎌倉街道の左右には杉林が黒々と続いていた。

### 〔大山道〕

現 上北沢入口商店街通り。あるいは現赤堤通りか。

### 〔下仙川〕

〔多喜坂〕は“滝坂”(現 東つつじヶ丘 1 丁目あたり)に同じ。

旧道“滝坂道”の名の起り。

街道から左へ分かれる〔目黒道〕とは後述の滝坂道か。

右へ分かれる〔深大寺道〕の分岐も、同じく現仙川二丁目交差点と思われる。

### 〔滝坂道〕

経堂すずらん通り商店街から直進、一旦赤堤通りに出て途中で分かれ、八幡山八幡神社前を経て、千歳清掃工場、千歳農協、祖師谷公園、を経て仙川へ通じる。

一方、後代、甲州街道の整備と共に多く使われる様になった、松原二丁目から甲州街道から分かれ、下高井戸商店街、日大通り、日大グランドを廻り、勝利八幡神社を経て八幡山八幡神社で合流する道も、“北の滝坂道”と呼ぶこともある。

〔金子〕現 つつじヶ丘付近。

〔下石原、上石原〕現 西調布付近。

〔下染谷、上染谷〕現 武蔵野台付近。

〔八王子の権現〕高尾山(薬王院)。

[現代文訳・地名考察：野口欣一]